



## 高齢心不全患者のQOL改善に役立つ漢方（4）

### 第4回 食欲不振



土倉 潤一郎 先生 [プロフィール](#)  
土倉内科循環器クリニック 院長



#### 食欲不振には漢方薬も重要な治療選択肢

食欲不振は日常診療において時折遭遇する症状の1つである。また、心不全のうっ血、低灌流所見としても出現しやすい症状であり、心不全の進行に伴い頻度が増す。食欲不振が低栄養、フレイルに影響する場合は生命予後にも関与することであり、なるべく早期の改善が望ましい。

食欲不振に対する標準的なアプローチを行っても十分な改善が得られない場合には、漢方薬も重要な治療選択肢の1つと考える。

**第1回 総論**では、心不全が陥りやすい漢方病態として、「[水毒](#)」「[冷え](#)」「[気うつ](#)」を示した。この3病態に対応する食欲不振の漢方薬としては、それぞれ[六君子湯](#)（43）、[人参湯](#)（32）、[茯苓飲合半夏厚朴湯](#)（116）がある。心不全の進行に伴い漢方薬の有効率も低下していく印象があるが、他に治療手段がない場合には検討すべき薬剤と思われる。



#### 胃の水毒が関与した食欲不振に六君子湯（りっくんしとう）（43）

**対象者**：「胃の水毒（後述）」が関与した食欲不振には六君子湯が第一選択となる。食欲不振の患者において「胃の水毒」が関与していることが多く、六君子湯は食欲不振の代表的な漢方薬である。

**処方解説**：六君子湯は[人参](#)（にんじん）、[朮](#)（じゅつ）、[茯苓](#)（ぶくりょう）、[甘草](#)（かんそう）、[陳皮](#)（ちんぴ）、[半夏](#)（はんげ）、[生姜](#)（しょうきょう）、[大棗](#)（たいそう）の8種類の生薬で構成されている。六君子湯は大きく[四君子湯](#)（75）+[二陳湯](#)（81）という2つの漢方薬に分かれる

(4+2=6)。四君子湯は消化機能を高めて**気**を補い(元氣をつける)、二陳湯は「胃の水毒」をさばく働きがある。

六君子湯にはグレリンによる上部消化器症状の改善効果、病態生理なども解明されているが<sup>1-3)</sup>、漢方医学的な視点でみると、六君子湯は「胃の水毒」を改善して食欲不振を治す漢方薬といえる。「胃の水毒」は西洋医学的に説明しづらいが、胃と舌が繋がっていることから「胃の水毒」→「胃のむくみ」→「舌のむくみ」という解釈で「舌のむくみ」を参考にする事が多い(胃の水毒所見として他に**胃内停水**などもあるが割愛)。「舌のむくみ」は舌が全体的に腫れぼったい感じ、口角ラインより拡大している、舌の歯型などを参考にして判断する。

**使い方**：食欲不振の漢方薬を鑑別するにあたり、「舌のむくみ」があれば六君子湯を優先して使用してよいと思われる。六君子湯は比較的速効性もあるため、食前服用の方が望ましいが、服薬アドヒアランスを優先して食後服用でも構わない。

鑑別処方については、食欲不振>倦怠感には六君子湯だが、倦怠感>食欲不振には**補中益気湯**(41)を使用する。また、**釣藤散**(47)や**抑肝散加陳皮半夏**(83)にも六君子湯に近い内容が含まれているため、高齢者であれば釣藤散、認知症の「陽性症状」があれば抑肝散加陳皮半夏も考慮する。「舌のむくみ」がなければ他剤を検討する。

**注意事項**：甘草による偽アルドステロン症に注意が必要(ツムラ六君子湯には甘草1g/日含有)

**事例**：89歳女性。数週間前から食欲不振があり、食事量の低下を認めている。嘔気、心窩部痛などは認めない。上部消化管内視鏡などでは異常所見なく、PPIでも改善がなかった。極端な冷え症はなく足先の冷えを認める。舌の腫大、歯型を認める。

処方：六君子湯1回1包 1日3回 毎食前 14日分

14日後：「少しずつ食べられるようになってきました」

28日後：「調子は良いです。食欲も元に戻りました」

## 冷えが関与した食欲不振に人参湯(にんじんとう) (32)

**対象者**：「冷え(後述)」が関与した食欲不振には人参湯が第一選択となる。

**処方解説**：人参湯は人参(にんじん)、朮(じゅつ)、**乾姜**(かんきょう)、甘草(かんぞう)の4種類の生薬で構成されている。六君子湯と同様に四君子湯(-茯苓)が含有しており、消化機能を高めて気を補う(元氣をつける)作用がある。さらに乾姜による温熱作用が特徴であり、胃腸を温めて消化機能を高める働きがある。

よって、人参湯の適応者は「胃腸の冷え」の有無によって判断する。「胃腸の冷え」は冷え症、自覚的な腹部の冷感、冷たい飲食物で症状悪化する、腹部を温めると症状緩和する、などで判断する。

**使い方**：食欲不振の患者に上記の「胃腸の冷え」がある場合には人参湯を優先して使用する。六君子湯で効果不十分な場合に検討してもよい。人参湯は速効性に乏しいと思われるため、頓用よりも定期服用が基本。甘草の量が比較的多いため、特に高齢者には1日2回の服用、改善があれば必要最小限の使用をお勧めする。

鑑別処方として、冷えや倦怠感が強い場合には人参湯+**真武湯**(30)を使用する。腹痛、腹部膨満、下痢など下部消化器症状を伴う場合は**大建中湯**(100)を使用する(場合によっては併用)。

**注意事項**：甘草による偽アルドステロン症に注意が必要(ツムラ人参湯には甘草3g/日含有)。



## ストレスが関与した食欲不振に茯苓飲合半夏厚朴湯（ぶくりょういんごうはんげこうぼくとう）（116）

**対象者：**ストレスが関与した食欲不振には茯苓飲合半夏厚朴湯が第一選択となる。

**処方解説：**茯苓飲合半夏厚朴湯は茯苓飲（69）と半夏厚朴湯（16）の合剤であり、人参（にんじん）、朮（じゅつ）、茯苓（ぶくりょう）、枳実（きじつ）、陳皮（ちんぴ）、生姜（しょうきょう）、半夏（はんげ）、蘇葉（そよう）、厚朴（こうぼく）の9種類の生薬で構成されている。

本来、茯苓飲は四君子湯（-甘草）に順気作用（気の巡りをよくする、抗ストレス作用）の枳実などが含まれており、ストレス性の上部消化器症状に対応する。早期飽満感（食べるとすぐに胃が張る）、ゲップ、胸焼けなど、ストレスで胃の蠕動が低下した状態を改善する漢方薬である。また、半夏厚朴湯にも順気作用があり、咽喉頭異常感症（喉のつまり）、心臓神経症（胸のつまり）などの喉から胸の閉塞症状を和らげる働きがある。すなわち、茯苓飲合半夏厚朴湯は“喉から胃までの蠕動低下（気の滞り、詰まった感じ）を改善する漢方薬”であり、ストレス性の食欲不振に適合しやすい。

また、生薬構成をみると六君子湯（-甘草・大棗）が含有されているため、“六君子湯+抗ストレス作用”のイメージで、西洋薬で例えるならスルピリドに近い。六君子湯と異なり、甘草が含まれていないのも利点。

**使い方：**食欲不振の患者にストレスの関与がある場合には茯苓飲合半夏厚朴湯を優先して使用する。六君子湯で効果不十分な場合に検討してもよい。茯苓飲合半夏厚朴湯は速効性に乏しいと思われるため、頓用よりも定期服用が基本。順気作用があるため、食欲不振以外にも、抑うつ、不眠、喉のつまり、動悸なども改善する可能性がある。

ストレス性の食欲不振の鑑別処方としては、柴芍六君子湯（さいしゃくりっくんしとう）≒六君子湯+四逆散（35）、香砂六君子湯（こうしゃりっくんしとう）≒六君子湯+香蘇散（70）、加味帰脾湯（137）などがある。

**注意事項：**特記事項なし

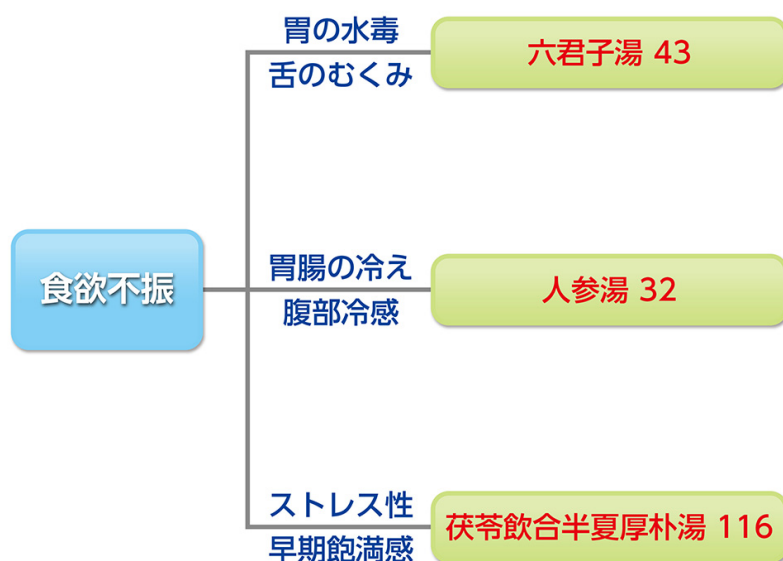


図 食欲不振フローチャート

【文献】

- 1) Takeda, H. et al. Gastroenterology. 2008, 134 (7) , p.2004-2013.
- 2) Arai, M. et al. Hepatogastroenterology. 2012, 59 (113) , p.62-66.
- 3) Tominaga, K. et al. J. Gastroenterol. 2014, 49 (10) , p.1392-1405.

---

(制作担当 : CSZ)

## 土倉 潤一郎（どくら じゅんいちろう）先生 プロフィール

土倉内科循環器クリニック 院長

### ▶ 経歴

---

2003年 聖マリア病院  
2005年 九州厚生年金病院 循環器内科  
2010年 麻生飯塚病院 漢方診療科  
2017年 土倉外科胃腸科医院 副院長  
2018年 土倉内科循環器クリニック 院長

### ▶ 専門医資格

---

日本循環器学会 循環器専門医  
心臓リハビリテーション指導士  
日本東洋医学会 漢方専門医・指導医  
総合内科専門医  
日本在宅医学会 認定専門医  
プライマリケア認定医

ホームページ：<http://www.dokura-cl.com>

（以上、2021年4月現在）

Copyright(C) ACCENT INC. All Rights Reserved.